

北海道えりも町からヒナコウモリの初記録

佐藤雅彦¹⁾・中岡利泰²⁾First record of *Vespertilio sinensis* from Erimo, HokkaidoSatô M.¹⁾ and T. Nakaoka²⁾

Abstract.

A dead female of the Asian parti-colored bat, *Vespertilio sinensis*, was found in a closed school in northeastern Erimo, Hokkaido, in April, 2013. It has not been determined if the closed school was being used as a roost by the bat. This is the first record of this species from Erimo.

ヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* は、北海道のコウモリ類の中では比較的大型のコウモリに含まれる種で、建築物や樹洞に多数の個体が集まり繁殖コロニーが形成されるほか、非繁殖期には単独で発見されることも多い（福井・百年の森ファンクラブコウモリ調査グループ, 2001; 佐藤・小野, 2000; 出羽・小菅, 2001; 出羽, 2005）。近年、北海道では同属で酷似するヒメヒナコウモリ *Vespertilio murinus* の分布や繁殖が明らかとなったため（Satô & Maeda, 2004; 近藤ほか, 2012）、これまでのヒナコウモリの分布の再検討も必要となりつつある。筆者らは北海道えりも町において死体として拾われた1個体のメスのヒナコウモリ属を見る機会を得て、計測および同定を行ったので以下に報告する。

拾われた死体は、2013年4月8日に幌岩崇史さんおよび大西俊紀さんによって、えりも町目黒にある旧小学校体育館内で発見されたものである（N42° 7' 47", E143° 18' 48"）。発見者らによると、体育館ステージの床上の隙間に引っかかるような姿で死亡していたとされる。春先の気温が低い時期であるものの、死体の腐敗や乾燥化の傾向があまりみられな

かったため、おそらく死後それほど日数が経たないで見つかったものと想像された。この場所は災害時の避難場所とされているが、ほとんど人の出入りはないという。

本個体は冷凍保存後、筆者の一人である佐藤のもとに送られ、同定および標本作成が行われた。我が国におけるヒナコウモリ属 *Vespertilio* は、外見が酷似するヒナコウモリとヒメヒナコウモリの2種が確認されているが、メスの乳房が前者は1対、後者は2対あることで識別できる（近藤ほか, 2012）。今回発見されたメス個体は乳房が1対であり、また前腕長も比較的大きいことから、ヒナコウモリと判断された。主な計測値を以下に示す。なお、標本番号はB11-20130408であり、毛皮標本と頭骨標本はえりも町郷土資料館にて保管される。

標本番号：B11-20130408
性別：メス
齢：成獣
標本作製時の体重：11.3g
翼開長：31.3cm

1) 〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館
Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

2) 〒058-0203 北海道幌泉郡えりも町字新浜 207 えりも町郷土資料館・水産の館
Erimo Town Museum, Shinhami, Erimo, Hokkaido, 058-0203 Japan

頭胴長：610mm (以下、単位は全てmm)

尾長：470

前腕長：495

下腿長：19

後足長(爪なし)：11

後足長(爪あり)：12

耳長：15.5

耳幅：12.5

耳珠長：7.0

耳珠幅：2.5-3.5

頭骨全長(GL)：17.0

頭骨基底全長(CBL)：16.5

上顎歯列長-切歯-臼歯(UTL, i-m3)：7.0

上顎歯列長-犬歯-臼歯(UTL, c-m3)：6.2

吻幅(RW) 犬歯部での最大幅：6.0

頬骨弓幅(ZW)：11.6

臼歯間幅(UMW)：7.5

脳函幅(BCW)：8.2

脳函高(BCH)：7.5

吻長(RL)：7.3

脳函長(BCL)：9.6

えりも町からはこれまでにヒメホオヒゲコウモリ、カグヤコウモリ、ウサギコウモリ、チチブコウモリ、コテングコウモリ、テングコウモリの6種のコウモリの記録があるが(柳川ほか, 2004)、筆者らの知る限りヒナコウモリが同町から記録されたのは今回が初めてと思われる。周辺地域からのヒナコウモリの記録としては、芽室町(柳川ほか, 2001)や帯広市(柳川ほか, 2006; 赤坂ほか, 2007)が知られている。福井ほか(2001)による倶知安町におけるヒナコウモリでは、4月下旬から成獣メスが繁殖場所に集まり、7月上旬に出産、8月中旬から成獣・幼獣の順に分散を開始するとされているが、今回の発見場所が、本個体にとってどのような目的で使われていたのかは現時点では不明である。今後、この場所も含めた周辺地域の更なる調査によって、同町におけるヒナコウモリの分布状況や生態が解明されるこ

とに期待したい。

謝辞

本個体を発見しご報告いただいた拾得者のお二人にまずは心からお礼申し上げます。またえりも町におけるコウモリ相については、柳川 久教授(帯広畜産大学)に近年の調査や分布についてご教示いただいた。ここにお名前を記して感謝申し上げます。

参考文献

- 赤坂卓美・柳川 久・中村大士, 2007. コウモリ類による日中のねぐらとしての橋梁の利用-北海道帯広市の事例-. 保全生態学研究, 12: 87-93.
- 出羽 寛・小菅正夫, 2001. 旭川地方におけるコウモリ類. 旭川市博物館研究報告, (7):31-38.
- 出羽 寛, 2005. 旭川地方のコウモリ類 III. 旭川大学紀要, (59):23-44.
- 福井 大・百年の森ファンクラブコウモリ調査グループ, 2001. 羊蹄山・ニセコ山系地区翼手類調査報告(2)-倶知安町百年の森周辺におけるヒナコウモリの季節的動態-. 小樽市博物館紀要, (14): 133-138.
- 近藤憲久・福井大・倉野翔史・黒澤春樹, 2012. 北海道網走郡大空町で確認されたヒメヒナコウモリの出産哺育コロニー. 哺乳類科学, 52(1):63-70.
- Satô, M. & K. Maeda. 2004. First Record of *Vespertilio murinus* Linnaeus, 1758 (Vespertilionidae, Chiroptera) from Japan. *Bulletin of the Asian Bat Research Institute*, (3): 10-14.
- 佐藤美穂子・小野宏治, 2000. 北海道苫前郡で保護されたヒナコウモリ. コウモリ通信, 8(2):4.
- 柳川 久, 2005. 日高山脈南東部のコウモリ類. 北海道の自然, (43): 61-64.
- 柳川 久・佐々木康治・片岡香織, 2001. 北海道芽室町北伏古地区における翼手目(コウモリ類)の捕獲記録. 森林野生動物研究会誌, 27: 20-26.
- 柳川 久・佐藤敏行・菅原瑞生, 2006. 北海道十勝・日高地方の翼手類相(6). 帯広市農耕地域の防風保

安林における捕獲記録. 森林野生動物研究会誌,
32: 5-10.

柳川 久・山田知江美・植田幹夫・市川利美, 2004.
北海道十勝・日高地方の翼手類相(3) えりも町猿留
川上流における捕獲記録. 森林野生動物研究会誌,
30: 21-27.

